



令和6年度

東明小だより

令和6年4月24日
第2号



〇先生との出会い



校長 吉田 尚子

木々の芽吹きが山を美しく彩っています。

4月8日の始業式、入学式から約1カ月が過ぎました。新しい1年生も元気よく学校に登校し、少しずつ学校生活になれてきました。登校時には6年生が1年生をはじめ下級生のことを考えて、ゆっくり歩いたり荷物を持ってあげたりと優しい姿が見られます。6年生もだんだんとリーダーの表情になってきました。この頃は1年生にも余裕が見られるようになり、元氣な挨拶とともにたくましさも感じています。

今年度、東明小に3年生から6年生までの図工を教えていただく〇先生が転任されました。〇先生と私との出会いは、今から35年以上前、大学4年生の時です。教員になるためには、教育実習といって、指定された小・中学校で実習を行わなくてはなりません。その実習先の指導教官が〇先生だったのです。

右も左もわからない大学生が、授業を行うのですから、しっかりと準備をしてみたつもりでも、上手いはずがありません。しかし、毎日放課後に行われる指導時間では、決して私を否定したり叱責することなく、必ず良いところをみつけて褒めていただいたりアドバイスをしたりして下さいました。

また、そんな人柄の先生が担任される学級です。おのずと学級の子もたちも優しく温かな雰囲気になります。最後の研究授業の時は、クラスの子もたち全員が一生懸命挙手をしてくれ、私の授業を応援してくれました。そんな〇先生と子どもたちのおかげで、私は、4週間の実習を無事に終えることができたのです。

当時は、他になりたい職業もあり、教師になるかとても迷っていた時期でした。しかし、〇先生が子どもたちと過ごす姿を毎日見るうちに、「教師ってすてきな仕事だな。私も教師になって、子どもたちとあんな充実した生活を送りたい。」という思いに変わっていったのです。まさに、私にとって〇先生との出会いは、人生を変える大きな出会いとなりました。

今年度、東明小では教科担任制を多くの学年で取り入れています。「大切な小学校での6年間。授業の専門性だけでなく、多くの先生と出会い、いろいろな価値観に触れてほしい。」そんな願いも込められています。〇先生と私の出会いのように、いつかどこかで先生と過ごした時間が、子どもたちの人生の中の大切な1ページになれば・・・と思っています。

